

令和3年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

| | | |
|---------------|-------------------|------------|
| 団 体 名 | 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 | |
| 施 設 名 | 横浜みなとみらいホール | |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 公演事業・普及啓発事業 | |
| 内 定 額 (総 額) | 15,266 | (千円) |
| | 公 演 事 業 | 5,498 (千円) |
| | 人 材 養 成 事 業 | 0 (千円) |
| | 普 及 啓 発 事 業 | 9,768 (千円) |

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|---|-------------------------|---|----------|-----|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 横浜みなとみらいホール Presents こどもの日コ ンサート 2021 | 2021年5月5日 | 出演：岩村力（指揮）、神奈川フィル ハーモニー管弦楽団（管弦楽）、荻原 緋奈乃・若生麻理奈（ヴァイオリン） | 目標値 | 700 |
| | | 神奈川県立青少年セン ター 紅葉坂ホール | | 実績値 | 687 |
| 2 | 第39回横浜市招待国際ピ アノ演奏会 | 2021年11月6日 | 出演：桑原志織、ケイト・リウ、ジ ヤン・チャクムル、ダニエル・チョ バヌ（ピアノ） | 目標値 | 600 |
| | | 神奈川県立音楽堂 | | 実績値 | 705 |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|---|---------------------------|--|----------|--------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | Just Composed 2022 in Yokohama —現代作曲家シ リーズ— 「オンド・マ ルトノ～魂の詩～」 | 2022年2月26日 | 曲目：山本哲也／新作「目に見えな い天使達の囁き」 他 出演：大矢素子（オンド・マルトノ） 他 | 目標値 | 350 |
| | | 神奈川県民ホール 小 ホール | | 実績値 | 261 |
| 2 | 横浜みなとみらいホール 出張公演 横浜18区コン サート 第I期 | 2021年9月14日～ 2022年3月2日 | 出演：萩原麻未・福間洸太郎・實川 風（ピアノ）、山根一仁・辻彩奈（ヴ ァイオリン） 他 | 目標値 | 2,250 |
| | | 青葉区民文化センタ ー、金沢公会堂 他 | | 実績値 | 1,716※ |
| 3 | 学校アウトリーチプログ ラム | 2021年10月4日～ 2022年2月18日 | 講師：伶楽舎（雅楽）、外山香（箏）、 池田正博（ジャンベ） | 目標値 | 1,000 |
| | | 東山田小学校、北綱島 特別支援学校 他 | | 実績値 | 557 |
| 4 | ミュージック・イン・ ザ・ダーク | 2021年12月5日 | 曲目：鶴の巣籠、春の海 他 出演：藤原道山（尺八）、風雅竹韻（尺 八アンサンブル、澤村祐司（箏） 他 | 目標値 | 300 |
| | | 横浜能楽堂 | | 実績値 | 297 |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

| 自己評価 |
|---|
| <p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> |
| <p>横浜市の4つの文化政策の柱である「市民の文化活動の支援」、「次世代育成」、「創造性を活かしたまちづくり」、「先進的な文化芸術の国内外への発信」に基づき、横浜みなとみらいホールでは、「音楽で人と人をつなぐ」、「音楽を通して横浜への愛着を育む」、「音楽の価値を継承し、新しい価値を創造する」という社会的役割・ビジョンを設定し、事業を展開しました。特に令和3年度横浜みなとみらいホールは、大規模改修工事のため休館中であったことを好機と捉え、地域の中核施設としての機能を最大限に発揮するよう横浜市内の各所で事業展開をはかり、地域の特色を再認識するとともに、ホールのプレゼンスの向上にもつなげる事業を計画し、当初の予定通りに進めることができました。</p> <p>公演事業では、2000年より実施している「こどもの日コンサート」において、これまでの親子で楽しめるオーケストラ公演の要素に加え、子どもたちの目線での企画を取り入れるものとして、“中学生プロデューサー”の取組みを新たに開始しました。43人もの中学生が参加し、来場者と出演者・スタッフをつなぐ役割をはたしました。同じく長年継続実施している「横浜市招待国際ピアノ演奏会」では、今後国内外で活躍するであろうピアニストの演奏を横浜から紹介・発信するだけでなく、出演者と子どもたちの交流の場を設けるなど、音楽の価値をつないでいく事業を展開しました。</p> <p>普及啓発事業では、2年間で横浜全18区をめぐる「横浜18区コンサート」のうち、10区で公演を実施しました。横浜やホールゆかりの演奏家をソリストに迎え、通常オーケストラで演奏される協奏曲を弦楽五重奏版とし、地域の小規模ホールでもお楽しみいただけるよう企画・実施しました。</p> |
| <p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> |
| <p>次代を担う子どもたちやアーティスト、演奏会等に携わる人々相互のつながりを深めることで、今後の文化・芸術の水準向上につながるような取組みを様々に展開しました。公演事業「こどもの日コンサート」の中学生プロデューサーは、コンサートの企画から構成、プログラム製作に至るコンサートの裏方を体験するプログラムですが、中には日頃は演奏したり演じたりする立場の子どもたちも「コンサートを支える人たちのことを知りたい」「舞台づくりのプロの話が聞きたい」などの動機で参加していました。また、「横浜市招待国際ピアノ演奏会」では、これからの国内外での活躍が期待できるピアニストをいち早く横浜から発信するとともに、子どもたちとの交流会も実施しました。普及啓発事業「Just Composed in YOKOHAMA」では同時代の音楽を継承するとともに、“オンド・マルトノ”というあまり知られていない楽器を紹介することに重きをおき、新聞記事等でも多数取り上げていただき広くご紹介できました。こうした点は、アーティストや演奏会に携わる私たちにも良い刺激になり、今後の芸術文化の発展にもつなげるものと思います。</p> <p>地域社会に対しては、身近な場所で誰もが音楽を体験できる場を提供することに努めました。普及啓発事業「横浜18区コンサート」では、「横浜の18区を知る良い機会だった」という来場者の声もあり、音楽を通して地域を知っていただくことができました。「学校アウトリーチプログラム」では、学校の授業の中で芸術体験の場を提供することで、日頃の生活の中では芸術等に触れる機会の少ない子どもたちにもその楽しさを感じていただきました。「ミュージック・イン・ザ・ダーク」でも暗闇の中で音楽を聴くという障がいの有無に関係なくお楽しみいただける内容のほか、障がいのある方が安心してご来場いただけるよう、鑑賞ガイドの開催や音声ガイドの実施、点字チラシ・プログラム等の製作など工夫しました。こうした誰もが音楽を身近に感じていただく事業展開を継続的に実施することが、人々の生活の豊かさにつながるものと考えています。</p> |

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■入場者・参加者数の目標の達成について

公演事業、普及啓発事業ともに、入場者・参加者数の目標を概ね達成したと言えます。

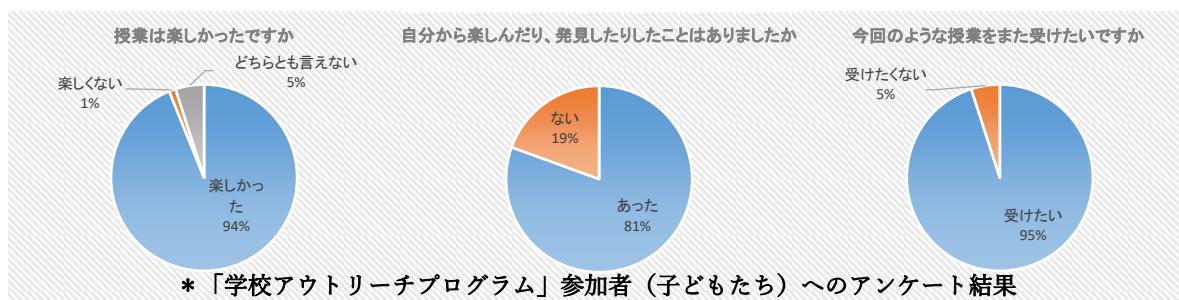
公演事業：「こどもの日コンサート」における“中学生プロデューサー”の人数は、活動するのに適した人数であろうという観点から15人を目標としていましたが、43人も申し込みがあり大きく目標を達成するとともに、4つのチーム（「広報」「プログラム製作」「校正台本」「レセプションリスト」）に分け活動を行うことで、公演制作の重要箇所に中学生たちが深く関わることができました。

普及啓発事業：「横浜18区コンサート」では、当初各会場100%定員で目標を設定し、実際は新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環で50%定員でのチケット販売としたため、目標数を下回る結果となりましたが、10会場中7会場ですべてチケットが完売となりました。「ミュージック・イン・ザ・ダーク」においても、会場の50%定員でのチケット販売となりましたが、販売状況を鑑み、同日に追加公演を行うことで、目標数を達成した状況となりました。また、「Just Composed in YOKOHAMA」では、関連事業（レクチャー）は、「オンド・マルトノ」という楽器の理解がじっくり深まるよう動画配信によるものとし、動画視聴数は1,700を超える視聴がありました。また、入場者数は若干目標を下回るものとなりました。

■入場者・参加者の満足度について

来場者アンケートによる事業内容の満足度については、本助成対象事業全体で「4.5」（5点満点）以上を目標とし、結果は「4.68」と目標を達成しました。普及啓発事業「横浜18区コンサート」では、地域の方々が自身の地域の文化施設を知り、身近な場で芸術体験をしていただく想定で、アンケートでは“初めて当該コンサート会場に来た”という設問を設定し、20%以上を目標としていたところ、平均45%程の方から“初めて”という回答を得ました。「身近な地域を知ることができた」という声もある中、5公演（5地域）のセット券が60セット以上販売された実績からも、予想以上に市内の様々な地域を知っていただくことができたのではないかと思います。

普及啓発事業「学校アウトリーチプログラム」では、参加した子どもたちのアンケートにより、「楽しかった」という声が90%以上ありました。通常の授業の中ではなかなか触れることができない楽器を演奏したり、みんなで合奏したりする体験など、子どもたちが楽しむ様子に、学校の先生からも「生の音楽に触れること、正しいことより楽しく演奏すること、そんな子どもたちを丸ごと認めていくこと、その大切さを改めて感じた」というお言葉もいただきました。



■横浜みなとみらいホール リニューアルへの期待

大規模改修工事のための休館中であった令和3年度は、「ホールのプレゼンス向上」という目標を掲げており、公演入場者へのアンケートにおいては、“リニューアル後の横浜みなとみらいホールにいてみたい”の設問を設定し、公演事業では「4.7」以上、普及啓発事業では「4.6」以上（5点満点）を目標とし、それぞれ「4.64」「4.63」という結果となりました。公演事業では目標を若干下回りましたが、今後の課題と認識し、リニューアルオープンに向けた事業企画の拡充や、よりいっそうの魅力の発信をしていきます。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■事業期間について

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」の期間が長くありましたが、概ね当初の計画通りに進めることができました。特に令和3年度は大規模改修工事によりホールが休館していたため、すべて外部会場を借用して事業を実施する状況でした。会場押さえから、各会場によって異なるステージの仕様や利用方法の把握、感染症対策、人員配置シミュレーションなど、十分に時間をかけて行いました。

公演事業「こどもの日コンサート」の“中学生プロデューサー”の取組みについては、前年度末から公演当日までに7回の活動を行いました。横浜市外からの参加者もあったため、オンラインでの参加を可能としたり、公演当日は緊急事態宣言下でもあったことから、コンサート運営に携わっていただくことができず、やむを得ず鑑賞する側での参加とするなど、最大限の配慮をしつつではありましたが、ほぼ予定通りの内容で進めることができました。「横浜市招待国際ピアノ演奏会」では、来日する出演者の調整を丁寧に行いました。1名の来日が叶いませんでしたが、ディスクラヴィア（自動演奏機能付ピアノ）を取り入れ、海外で記録したものを日本で再現する取組みをし、また来日できた出演者に対しても隔離期間の調整等、関係各所・機関との調整を適切に行うことで、計画通りの事業実施につながったと言えます。



*“中学生プロデューサー”の活動の様子

撮影：藤本史昭

普及啓発事業「横浜18区コンサート」では、一部ソリストが変更になる公演がありましたが、日程としては、予定通り9/14～3/2の間で10公演の実施に至りました。同じく普及啓発事業「学校アウトリーチプログラム」では、8校19日間のプログラムとなり、うち1校は当初予定から日程を変更するケースがありましたが、予定通り全日程を終了することができました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■事業費について

助成対象事業計6事業（公演事業2／普及啓発事業4）のうち、事業費（助成対象経費）が要望時と決算時で大きく乖離（80%未満または120%以上）した事業は2事業あり、4事業については概ね当初の計画通りに事業費を執行しました。

前者2事業のうち、普及啓発事業「学校アウトリーチプログラム」においては、要望時から大きく事業費が削減されました。これは令和3年度当初に学校の希望が出され、その後鑑賞型にするか、体験型にするかを決定するところで事業費が異なってくるものであることでもあります。今回8校でのプログラム提供となり、各学校の希望等を調整する中で、ジャンルは箏、雅楽、ジャンベという3種類として、各ジャンルの講師（アーティスト）は同じアーティスト（計3組）をお願いし、事業進行の効率化をはかったことで事業費の削減にもつながったものです。

同じく普及啓発事業の「ミュージック・イン・ザ・ダーク」では、要望時より事業費が増加となりました。新型コロナウイルス感染症拡大状況により、当初予定の会場定員100%設定ではなく50%で設定をしましたが、チケットの販売状況を鑑み、同日に追加公演を行うこととなったため、出演料や制作費等が多少増加したものです。ただし収支の点でみると、当初予定より収入が増額となった上に、出演料や制作費の増加を可能な限り抑えることができたため、概ね当初の計画通りに進めることができました。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

大規模改修工事による休館中ではありましたが、次年度のリニューアルオープンを見据え、音楽専門ホールであること、公共ホールであること、横浜という街に立地するホールであることなど、地域から求められることを再認識する期間と捉え、音楽に親しむ層の拡大や音楽の新たな価値を創造する拠点としての機能を発揮する事業を展開しました。

■新たな音楽の価値の創造

公演事業「こどもの日コンサート」の“中学生プロデューサー”の取組みは、20年以上継続実施している同事業に新たな展開をもたらすものとなりました。曲目や構成、広報、プログラム製作など、中学生の視点をふんだんに盛り込み、来場者のアンケートでも“子どもも大人も楽しめる選曲”や“進行の工夫”、“配布プログラムの内容”などに高い評価をいただきました。また出演者やスタッフにも良い刺激となり、中学生プロデューサーをハブとした客席もステージも一体となる事業となりました。

また、昨年度WEB上の音楽フェスティバルを実施したノウハウを活用し、感染症の影響が残る中で映像を取り入れることでの創造性発揮につながる取組みもありました。公演事業「横浜市招待国際ピアノ演奏会」では、出演者のうち1名の来日が叶わず、海外で録音・録画した演奏をディスクラヴィアと映像で再現しました。ディスクラヴィアによる演奏ということで戸惑われる来場者もありましたが、この時代の新たな試みとなりました。また同演奏会の特別レクチャーでも講師が来日できず、カナダからのリモート講演として実施したほか、「こどもの日コンサート」でも、事前収録した児童合唱の映像と生のオーケストラ演奏のコラボレーションによる公演が実現しました。



*「第39回横浜市招待国際ピアノ演奏会」
ディスクラヴィアによる演奏

撮影：藤本史昭

■社会包摂の取組み

普及啓発事業「ミュージック・イン・ザ・ダーク」は、視覚に障がいのある演奏家と障がいのない演奏家のアンサンブル演奏による公演で、一部客席の照明をすべて消して演奏する演出を取り入れ、音楽そのものを感じる公演となりました。能楽堂での尺八や箏のプログラムとし、客席側でも暗闇の中尺八の音色を響かせるなど、暗闇を上手く利用した演出などにより、“闇に響く音”という公演のサブタイトル通り、音が会場の至るところから聴こえ、客席もステージも一体となる感覚を味わう公演となりました。来場者にも障がいのある方が来場しやすいように、ペア券（障がいのある方と介助者1名の並び席）の設定や、点字チラシ・プログラムの製作、公演前の鑑賞ガイドを実施するなど、来場者すべてが同じように公演を楽しめる工夫を様々に取り入れました。来場者のアンケートにおいては、「視覚を取り除き、音色だけに集中できた」「音色に集中しつつ、いろいろな想像力がはたらいた」など、誰もが同じ感覚で音楽に触れていただける機会となりました。

同じく「学校アウトリーチプログラム」でも、ほとんどの子どもが触れたことのない楽器の体験や、授業の中でのプログラムのため、みんなと一緒に参加できる体験であり、子どもたちの創造性が育まれる事業となりました。今回取り組んだ箏、雅楽、ジャンベ、すべての体験で、“失敗しても大丈夫”“まわりの子と協力してやってみよう”“とにかく楽しもう”といったことを講師が伝えており、今後の音楽への関わり方にもつながるものとなればと思います。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

■横浜市内全域での事業展開

令和3年度は大規模改修工事による休館のため、横浜市内全域で積極的に事業展開することをミッションに掲げ、より幅広い地域で演奏会や体験事業に取り組みました。実績として、横浜市全18区のうち、17区で本助成対象事業を展開することができました。（残り1区は助成対象外の事業を実施）

普及啓発事業「横浜18区コンサート」の10区10公演では、それぞれ公演のアンケートの“当該会場に初めて来た”を回答いただく設問で、平均して45%程の方が初めての来場という結果になり、地域を知っていただいた方がいるとともに、身近な施設で気軽に音楽に触れていただいた方もいるのではないかと思います。また、各区の後援もいただき、地域の情報収集や広報面など連携・協力体制をとることができ、次年度リニューアルオープンする横浜みなとみらいホールとの連携も見据えることができました。今後も地域の中核施設として、市内の様々な地域の文化芸術の発展に寄与していきます。

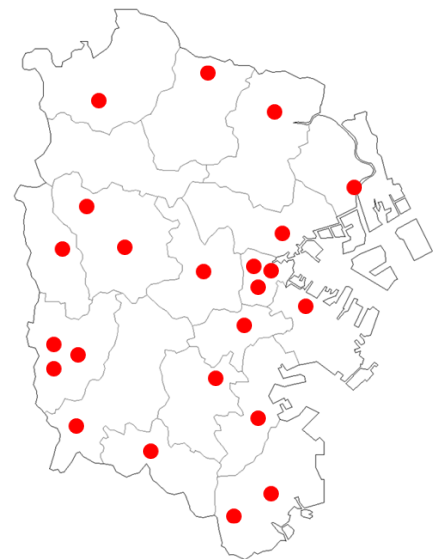
また、普及啓発事業「学校アウトリーチプログラム」でも、様々な地域の小学校で芸術体験プログラムを提供しました。講師も横浜在住の音楽普及に意欲的なアーティストに参加いただき、アーティストにとっても今後の活動に良い刺激となっていました。子どもたちからは“今後も今回した楽器をやってみたい”という声もあり、子どもたちと音楽や芸術との距離が少しでも近くなることに貢献できているものと言えます。

■横浜からの芸術発信

横浜においては、将来の音楽シーンを彩るだろう若手ピアニストを世界から見出し紹介し、横浜から発信する、1982年から続く『横浜市招待国際ピアノ演奏会』や、敬遠されがちな「現代音楽」を取り上げ、時代性の反映される同時代の音楽を新作として発表・紹介する、1999年から続く『Just Composed』（前身である「日本の作曲家シリーズ」は1977年～）を長年継続し、広く発信しています。当館では、その2事業について、若手演奏家や作曲家、同時代の音楽など、新しい価値を創造・継承する事業として、1998年の開館以来取り組んでいます。

令和3年度も公演事業「横浜市招待国際ピアノ演奏会」では、公募による審査の上、4名のピアニストが選考され出演しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で通常の公演を実施できなかったため、長年本事業を楽しみにしている方々には待ち望んでいた様子も見受けられ、4名それぞれの個性あふれる演奏をお楽しみいただきました。

普及啓発事業「Just Composed 2022 in Yokohama」では、国内外の作曲コンクール等で受賞・入選を重ねている山本哲也による新作と、2017年にもともとバンドネオン、サクソ、ピアノのために書かれた作品を今回の編成（オンド・マルトノ、ヴィオラ、ピアノ）での編曲作品の演奏で、新たな価値が創造されました。今回は“オンド・マルトノ”という一般にはあまり知られていない楽器を取り上げ、その魅力を紹介するよう新聞等のメディアへの露出も数多く展開しました。また例年事前にレクチャーを実施していましたが、今回はじっくりと楽器を知っていただくため、5章にわたるレクチャー動画を配信しました。演奏会では“初めてこの楽器の音色を聴いた”という演奏会の来場者も多く、事前の様々な取組みが演奏会への来場者拡大につながったものと言えます。



*横浜市区図上でみる事業実施地域
<●：事業実施地域>

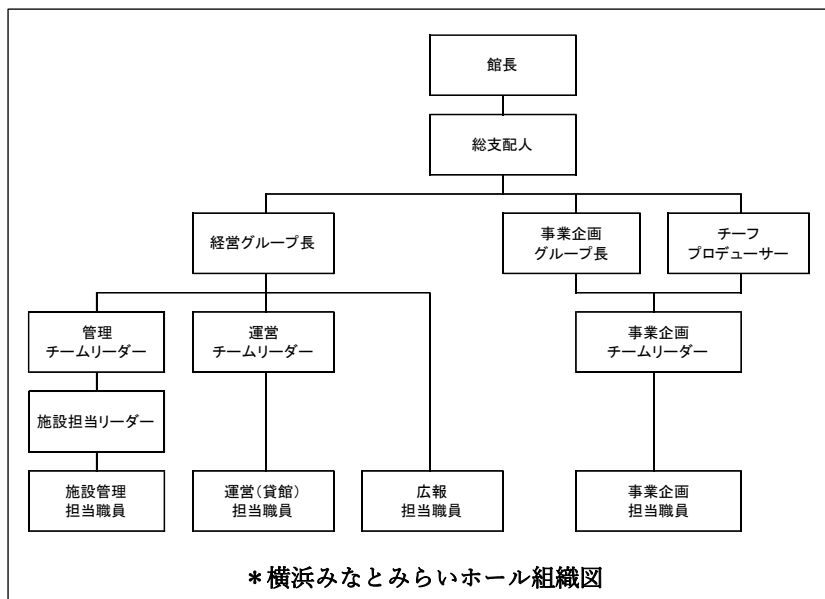
(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

■人材面

館長の新井鷗子を芸術監督的な役割に据え、館全体のマネジメントは総支配人が担い、事業の収支面での執行管理を行う事業企画グループ長のほかに、事業の企画・進行管理を行うチーフプロデューサーを2名配置することで、芸術性・企画性の高さを保ちながら、事業の進行や収支の面でも管理を行える体制をとり、令和4年に迎える大規模改修工事からのリニューアルオープンに向け事業の実施体制を強化しています。事業企画を担当する職員4名は、音楽専門ホールであるとともに、地域の中核施設であることを



意識し、公演、人材養成、普及啓発など幅広く専門性を発揮できるよう、横浜市芸術文化振興財団での専門人材研修等により専門性を磨いています。財団内での異動の可能性はありますが、別の施設で専門性を身につけた職員が配置されることにより、事業的にも組織的にも拡がりができる仕組みともなっています。また、施設運営（貸館）や広報においても、国内の主要オーケストラや海外オーケストラ公演への協力のほか、利用者が自主事業の来場者・参加者になることも想定し、事業運営とも密接に連携を図り、館全体で人員体制の強化を進めています。

■財務面

当施設の主な収入は、指定管理料収入・横浜市からの事業負担金、施設利用料金収入、入場料等収入、助成金・協賛金収入となります。その中で、事業は可能な限り指定管理料に頼らない事業実施に努め、ホール（大小ホールとも）の利用率が100%に近い中で大きな収入源でもある施設利用料収入を確保するために、自主事業の割合を3割程度に抑えることで収支のバランスを保っています。令和3年度は休館中ということもあり、外部会場で事業を実施するための会場利用料が費用として発生する一方、定員の少ない会場での事業実施がほとんどであったことから、収支バランスを整えるために、出演者の選定や企画内容などの調整に努めました。さらに本助成をいただくことで幅広い企画を実施することにもつながりました。今後も地域や社会へ貢献した、地域の特性を活かした事業を企画する中で、様々な助成制度の活用や企業協賛金の獲得を着実に果たしていきます。

■各方面とのネットワーク

令和3年度はすべての事業を外部会場で実施したこともあり、市内各所や各機関等との連携はかかせないものでした。普及啓発事業「横浜18区コンサート」での各区との連携や、「ミュージック・イン・ザ・ダーク」での大学や特別支援学校、障がい者対応機関との協力体制など、今後につなげていけるものとなりました。また、様々な地域で事業を実施したことで、来場者や地域の人々とのつながりも幅広いものになってきています。リニューアルするホールを盛り上げるためにも今回得た地域のニーズなどをふまえた事業展開をはかっていきます。

また、「横浜18区コンサート」では、休館前から事業での連携だけでなく、定期演奏会などの利用をいただいていたオーケストラのメンバーにご出演いただく企画でもありました。各オーケストラの方々に横浜の各地域のことも知っていただく機会となるなど、これまで以上に深い連携がはかれたものであるとも言え、今後の事業展開だけでなく、ホール運営にもつながるネットワークの強化となったと言えます。